

2014 年度
訪中団 感想文集

深圳、香港 5日間

日中經濟交流研究会

訪中団感想文集

Index

2014年度 日中経済交流会 訪中団スケジュール	2
(株)常磐 松本 清治	3
(株)豊田製作所 豊田 浩二	3
福地金属(株) 福地 守	4
(株)熱気球 許 媛	5
(株)瑞穂産業 水本 雅博	5
(株)電研社 野村 明宏	6
(株)インターフォワードシステムズ 中本 久美	7
(株)インターフォワードシステムズ 小野 謙二	8
金剛運輸(株) 和気 金昭	8
大山印刷(株) 大山 武久	9
川本工業(株) 中野 幹生	10
アベル(株) 居相 浩介	11
K総合会計 大塚 教進	12
坂元鋼材(株) 坂元 正三	13
三恵ハイプレシジョン(株) 落合 良寛	14
(株)リバーフィールド 山岡 和美	15
(株)カナツ加工 金津 智俊	15
(株)Sea Hawk International 趙 海鷹	16

訪中団感想文とは…

始まりは、2010年の訪中団でした。蘇州、上海の企業訪問や中国の人々との交流は、参加者に大きな刺激を与えました。また、5日間にわたり寝食を共にし、語り合うことは“大人の修学旅行”と呼ばれるようになりました。そこで、この貴重な体験を感想文集という形で残そうという気運が生まれました。それから今回で5回。参加者が自分の感じたこと気づいたことを、自分の言葉で表現しています。ぜひ、同友会の会員のみなさまには一読してもらいたいと思います。



企業訪問に尽力された坂さんと訪中団一同

2014年度 日中経済交流会 訪中団 スケジュール 5日間

日 付	行動予定	開始	到着・終了	備 考
2014年11月5日(水)	関空Aカウンター集合	13:30		航空券等書類配布配布
	関空→福州経由→深セン（深セン航空）	15:35	20:10	
	深セン空港→羅湖大酒店	21:00	22:00	空港からホテルまでバス
	夕食 羅湖大酒店			羅湖大酒店日本料理店
	羅湖大酒店			ホテル着
2014年11月6日(木)	朝食			羅湖大酒店
	羅湖大酒店→观澜新城	9:00	10:00	観光バス・添乗員付
	观澜新城shopping mall、观澜湖ゴルフ会所見学	10:00	12:00	深圳市龙华新区观澜高尔夫大道一号0755-2802-0888 （山小屋 姚明様同行）
	昼食	12:00	13:00	观澜地产商业有限公司
	昼食→名立	13:00	14:00	観光バス移動
	名立（ミーティング）	14:00	15:00	东莞市清溪镇渔梁围名立工業城0769-8733-8958
	坂制作香港（ミーティング・工場見学）	15:00	16:00	东莞市清溪镇渔梁围名立工業城0769-8127-6536
	坂制作香港→山小屋	16:30	17:30	観光バス移動
	山小屋（店舗見学）	17:30	18:00	深圳市罗湖区建设路火车站大楼北端二楼0755-8233-1688
	山小屋→食事	18:30	18:40	徒歩移動
	食事 丹桂軒（新都酒店）	19:00		FNA 永野様・山小屋 姚様 同席
	羅湖大酒店			
2014年11月7日(金)	朝食			羅湖大酒店
	栄華（ミーティング）	8:30	9:30	羅湖大酒店日本料理店大広間にて
	羅湖大酒店→才智	9:30	10:30	観光バス移動
	才智（ミーティング）	11:00	12:00	深圳市宝安区观澜街道桂花工作站星花社区 庙溪工业区 观澜日技城制造厂B地区6栋3楼B室
	昼食	12:00	13:00	食事 0755-2798 8320
	昼食→明智	13:30	14:30	観光バス移動
	明智（ミーティング・工場見学）	15:00	16:00	深圳市龙岗区南澳街道水头沙第二工业区B栋0755-2792-6892
	明智→食事	16:30	17:30	観光バス移動
	食事 海底捞火锅(友谊城店)	18:00		人材 田中様同席 食事 【人気店のため大幅に予約時間を過ぎると予約無効になる可能性あり】
	羅湖大酒店			
2014年11月8日(土)	朝食			羅湖大酒店
	羅湖大酒店→香港	10:00		ダブルナンバーバス
	昼食 飲茶	12:00		
	香港視察（星光大道→レバルスベイ&スタンレー →DFSとその周辺自由行動）			
	夕食 広東料理	19:00		
	香港→羅湖大酒店	21:00	22:00	ダブルナンバーバス
2014年11月9日(日)	朝食			バス内でお弁当
	羅湖大酒店→深セン空港	6:00	7:00	ホテルから空港までバス
	深セン→福州経由→関空（深セン航空）	8:25	14:25	
	解散			

訪問先	業務内容	拠 点
名立有限公司	中国での日系企業工業団地運営、管理	香港・中国(清溪)
坂制作香港有限公司	各種設備機械の精密部品加工	香港・中国(清溪)・日本
山小屋	ワイエスフード、ラーメン店フランチャイズ展開	中国(深セン)・タイ・インドネシア・フィリピン・マカオ・マレーシア・ミャンマー・台湾・日本
FNA	アジアの製造業のビジネスマッチング	香港・中国(上海・深セン)・タイ
栄華電資貿易有限公司	電気部品から生産システムまで、総合商社	香港・中国(深セン・長安)・ベトナム・日本
才智商業管理有限公司	会計事務所	香港・中国(深セン)
明智銀包国際有限公司	財布製造メーカー	香港・中国(龍崗・広西)・ミャンマー・日本
チャイナクリエ	人事・労務コンサルティング	中国(深セン)

2014年度訪中国 感想文

(株)常磐 松本 清治

私は今回で3回目の中国訪問でしたが 深圳・香港は初めてでした。

中国の発展は建築の方面から見ても、まだ新しい地区の深圳の町の発展進歩がうかがえて興味深かったです。

又、皆さんと訪れた会社の社長さんがとても若い方ばかりで驚きました。

若い社長達は「理念」よりも「生き残り・稼げる企業」として頑張っているなあと感じました。

会社はある意味儲けを求め続けて突き進むことが重要だと思いますが環境・状況が大きくぶれる中、求め続ける大いなる野望がはっきりしている。それがないと中国での日本企業は生き残れないだろうと思う。

見習いたいところと感心するところ…色々ありましたが、中小企業にとって生き抜く「術」は1つではないことが又気づかされたというか、思い知らされました。

私達中小企業家にとって中国が特殊なケースというわけではありません。

国内で企業活動をしていても状況は皆同じ、「安心」と「安全」は不確かな物でしかないのです。料理は別ですが。

他を見て自分の会社を見直さなければなりません、これからも成長を夢見る社員たちと 「叱咤し」、「励まし合い」ながら明日を夢見、成長する企業で あり続けたいと思いました。

最後になりましたが会員の皆様。本当にやさしい方達ばかりで楽しい4日間の旅でした「ありがとうございました」

謝謝。



2014 訪中国 深圳&香港 5日間

(株)豊田製作所 豊田 浩二

深圳訪問前

政策等により街から活気がなくなり、景気も低下し治安の悪化も進み一部スラム化しているという情報が多くあった。

訪問を終えて

街の雰囲気や活気は他地域と特別変わりなく感じた。

他地域と比べて今までは経済面で優遇されてきた部分が多くあったようだが香港返還後、徐々にではあるが中国共産党の影響が出てきているように思う。

その香港も返還後、中国の経済成長に伴い大陸からの人・人民元の流入で景気は良いようだが、今回デモがあったように10年、20年先の不安要素は多く出てきているようだ。

今回訪問した企業には、人件費・土地価格の高騰に伴い、来年早々ミャンマーに移転予定の企業もあり、我々と同じ目線で今までと違いChina+one を意識した企業も多くあったが、そんな中で香港資本の企業は世界一大きなゴルフ場を経営し、一大リゾートの開発・運営をしている本土でもまだまだ元気な企業もあった。

やはり中国は奥が深く香港特区を使い、やりようによってはまだまだチャンスが多い国で、China+oneのミッションは今後の続けていく必要を感じる。

今回の訪中でいろいろなベクトルを持った企業と交流できたことは、良い刺激になった。

2014年 深圳、香港訪中団に参加して

福地金属(株) 福地 守

以前、深圳・東莞に来たことがある。もう12年も前になる。その少し前頃から日本の製造業は東南アジアにどんどん工場を移し始め、中でも経済特区の深圳地域への進出は多かったように記憶している。その時の感想で単純な製品を大量に生産することでは絶対勝てない。当社の現在の方針、少量短納期を強みにするのはこの時確信したことを思い出した。

当時地方から若者たちがお金を求めて集まってきた。場所と人はいくらでもある。仕事を持って来れば何千人でも一日で集めてあげますよ、と前回訪問した時に言われた。

そうして低賃金の労働力を求めて進出してきた企業は今ではコストが合わなくなってきたらしい。今では内陸の地方都市でも工場や働く場所が多くできたそうで賃金上昇の上に労働力不足らしい。たとえ寮を作っても市街地から遠くでは人が集まらないそうである。おまけに香港企業と深圳市の間での優遇措置来料加工(材料100%輸入、加工品100%輸出)のライセンスも更新されないということで見学先の企業の方々も今後の経営継続に頭を悩ませられ、移転や現地法人化などそれぞれの新しい戦略を求められていた。

そんな深圳の印象とは全く違う巨大ゴルフリゾートとショッピングセンターの開発現場が今回の最初訪問先だった。そんなところみて何になんねんとも思えるがその巨大さは日本のバブル時期のものとは桁が違う。しかし、その巨大な開発業者のオーナーは台湾の人と聞いた。台湾や香港の大資本家が中国に投資し収益を上げる仕組みを作り利益を吸い上げる続けるためにも台湾や香港の政治家が中国よりになっているのではないかと想像した。

それにしても最低賃金は高いとはいえ4万円ほど、中間層といっても年収200万円あるなし。マンションや車の値段も日本と変わらずコンビニで売ってる水の値段も差はない。マッサージでも3,000円なら日本でも一般的。100均であるような物なら中国の方がよほど高い。しかし、道路で見かける高級車の割合は日本の比ではなく、一体みんな何で稼いでいるのか。

中国は日本の40年遅れと言われていたが都市部の表面上ではほとんど差が無いように見えるまで進んでいる。そして今やGDP世界2位、新車販売台数では世界一の国にまでのし上がり世界の経済も中国なしでは成り立たなくなっていると言われる。しかし昼食のレストランでは最初に注がれたお茶は飲

むためではなく食器を洗うためというのにはショックだった。

最後の香港観光も27年ぶりだった。7月の例会で中国観光局の方のお話を聞いた。今や中国人の海外旅行者は1億人にもなるそうでその内の大半が香港に行くらしい。まさにその様子を体で感じる国境越えであった。

中国ではお金もちになると最初に家、そして車、次に船を所有することがステータスのこと。そして最後に不動産会社を持つことであり、儲からない仕事にいつまでも固執しない。だめだったら捨てて次に行く。そこには社員がいたとしても気にしない。日本人は立て直す、継続することに注力する。どちらが正しいかわからないが、日本が世界で一番100年企業が多いということはそういう考え方がもとにあるのだろう。自分は一体何を目指すべきなのか、私たち自身の価値観をしっかりと持たねばならないとあらためて考えたいと思う。

同友会とはそういうことを追求していくところであると思う。

最後に今回の旅行に関わっていただきました皆様に感謝しお礼を申し上げます。ありがとうございました。



訪中感想

(株)熱気球 許 媛

今年も同友会日中経済交流会訪中団に参加させていただきました。

今回は4泊5日チャイナ・プラスワンのテーマで深圳と香港に行って参りました。

初日深圳の新しい空港の巨大さに驚きました。深圳は香港の新界と接し、経済特区に指定されています。中国本土では北京市、上海市、広州市に次ぐ第4位大都市でもあります。世界都市であり、金融センターとして高い重要性を持ちます。今回の視察は内容がとっても豊富でした。

二日目は世界最大規模のゴルフ場のリゾート視察の見学、全部214ホールもありました。アメリカで有名なタイガー・ウッズ選手の手形も拝見する事が出来ました。午後は工業団地運営している名立有限会社を訪問。担当者の話しは凄く分かり易いため、香港は税金が安く、ペーパーカンパニーも認めているとのこと、法人税は中国と比べて相当低く、2香港ドルで会社が設立できるなどの情報が聞けました。坂製作も訪問しました。坂製作は9年前香港で会社設立し、深圳で来料加工の形で運営しています。坂社長は真面目で、有望な好青年の印象でした。最後は若い中国人姚明さんが経営している(山小屋)日本九州のラーメンチェーンの店も訪問しました。

三日目は栄華電子の飯塚社長からは中国とベトナムの比較、

反日運動、人材問題などの本音も聞けました。才智商業管理有限公司を訪問し、モンゴル出身のトードーゲリルさんは深圳と香港の会計事情について詳しく説明してくださいました。トードーゲリルさんの流暢な日本語と豊富な会計知識には本当に感心しました。日本人は一つの事業が何世代も継続し続けている職人的な辛抱強さと中国人が利益を追求事だけ考える商人的な素質の違いに同感しております。最後は明智皮具製品有限公司を訪問。中国の賃金高騰と人手不足のため、経営者の小野社長は今の事業はミャンマーに移転することに決めました。中国人の私にとっても残念だと感じていましたが、そのまま生き残れる方法は本当はないのでしょうか?きっと小野社長もたくさん葛藤されて決められたことと思いますが、小野社長の成功を心より祈ります。

四日目は香港一日遊でした。10年振りの香港でした。深圳から香港入るときに長蛇の列が印象的でした。思いもかけないのは軒に悩んでいる私は香港製まくらを買いました。美味しい広東料理を食べて、素晴らしい香港の夜景を忘れません。

今回も沢山経営者のみなさんの本音を聞かせて頂き、大変貴重な体験をさせて頂き、本当に良かったと思います。

落合会長をはじめ、豊田さんなど訪中担当の幹事達に御礼を申し上げます。

.....

2014年訪中団レポート

(株)瑞穂産業 水本 雅博

今回は深圳、東莞、香港と中国でも南の方に行くとの事でした。香港は去年も行ったんですが、深圳、東莞は7年ぶり位だったのでとても楽しみにしていました。

まず初めに驚いたのは、深圳がとても綺麗になっていた事でした。たしかに、前は仕事だったので、ほとんど工場とその周りしか行けませんでした。それでも、同じ場所とは思えませんでした。本当に中国という国は、何年か行かなければ、浦島太郎のような気分を味わえる国です。

そして、今回お世話になった坂さんのすばらしいアテントのおかげで、中々聞く事が出来ないお話を聞く事が出来ました。来料加工という香港の横にあるからこそ出来るシステムや、中国で商売をするときのこれからの問題点、又、小野さんによる中国から撤退をする時の問題点等を聞く事が出来ました。

こんな、生々しい話が聞けるのは、同友会の訪中団ならではなく、あらためて思いました。今回も実りの多い訪中団に参加できたことに感謝して。

2014年度 訪中の感想

(株)電研社 野村 明宏

中国訪問は上海に3度、南京そばの地方都市(徐州だったか?)に一度の計4回。南部の深圳は、初訪問。また、中国で中国ではない香港に行けるとあって、事前の期待はかなりふくらんでおりました。よくある企業訪問と観光がセットになった程度と想像していましたが、大勢の現地経営者さんの生の声を聞く機会を得て、想像以上に内容の濃い旅行でした。今回、考えさせられたのが「金銭感覚のズレ」、「異国で商売する方々のバイタリティー」、「社員に対する経営者の意識」のこの3点。

「金銭感覚のズレ」

社員に4~5万円の給与を払っては大赤字!大変苦しいと嘆いてミャンマーへ出て行く決意をされた社長さん、ダブルナンバーのBMWにお乗りになっている。中国事情に詳しい知人にきくと、その組み合わせには確実に2000万円は必要とか。町を歩けば飲み屋のママさんに声をかけられる…(それだけ飲み歩ける余裕がある)。10000円の給与をもらっている方で車を持てる。豪華な広東料理が一人200元ほど。億の単位の別荘がどんどん建つ。難しくなってきたとは言え、成り立っている来料加工…。私が初めて訪れた時の中国は判りやすかったが、今では日本より格差が激しく感覚が狂います。

「異国で商売する方々のバイタリティー」

皆さんのお話を聞いていると考える事も大事だが、とにかく行動に移す事の大事さ、またそのスピード感を大切にされていると感じました。何事にも臆せず先を信じて前を向く、仕事も遊

びも全力投球!(食事の後の二次会では、現地の経営者の方々は皆弾けていた!)喋り方に差は有っても、幾多の困難を乗り越ってきた自信が背景にあるのか澁み無く出てくる経験談は、聞く者を惹きつけます。当社も海外へ出て行くかどうかの選択の岐路にたっています。私も彼らの様に腹をくくる事ができるのか?考えさせられた皆さんの言動でした。

「社員に対する経営者の意識」

同友会の例会では、経営理念の社内への浸透や社員のやる気や自主性をどの様に引き出すか等、社員へ焦点をあてた話題が何かと取り上げられます。しかし、今回の訪中でお会いした方々は、人件費の事ばかりが話題に上がり、その安い場所安い場所への移動が焦点となっており、如何にして社員と共に成長するか等の視点が全く感じられません。安い労働力を求める方々は、そればかりに焦点が当たるのか? 経営者の視点がそこにしか無いせいか、工場で働く皆さんの表情が無味乾燥で動作が機械的に見えたのは思い込みのせいであろうか? 雇う方も働く方も、お金、お金、お金…。下降を知らぬ右肩上がりの世情故そうなるのか? 複雑な気持ちが尾を引く視察でもありました。

視点がズレますが、製造業さんとサービス業さんとは、その経営者さんの「しんどさ」と「前向き感」がそれぞれ異なると感じたのも興味深い事でした。



訪中団に参加して

(株)インターフォワードシステムズ 中本 久美

今年も訪中団に社員とともに参加させていただきました。

私だけが広い世界を見て朝礼で語ってもなかなか伝わらないものです。そこで数年前から社員を参加させています。訪中団以外の海外出張も含めるとこれまでに延べ10名の社員が私や会長と海外を一緒に訪問しています。全員となるとまだまだ時間はかかりますが、それぞれの社員の視野が広がったことと思います。特に訪中団は団体行動ゆえ、他の経営者の皆様のご理解があつてのことと心より感謝申し上げます。

さて、肝心の今回の訪中の感想ですが、行き先の深圳・香港に強く魅力を感じていました。深圳から多くの製品特に電子部品等が日本に輸入されています。けれども一度も訪問したことがありませんでした。そして香港は何と26年ぶりに訪問しました。新卒入社したその年の社員旅行が香港でした。時はバブル絶頂期。でもまだまだ香港にはダウンタウンの色が濃く残っていました。それから中国に返還され今どのように変化したのかとても見たかったのです。

観瀾湖ミッションヒルズでは度肝を抜かれるほどの壮大なリゾート開発が進められ、高価なマンションやゴルフ会員権を購入できる富裕層がたくさんいることの証明を目の当たりにしました。個人的に再訪問することはないと思います…。

名立さんでは進出企業の支援を中小企業がしているところが驚きでした。今後税金の優遇政策が収束されるかもしれないとなると、今後の展開として安心な食料のための農業進出も大変興味深いものがありました。日本のTTPとも合い通じるものがありそうな気がしました。

坂さんの工場では多くの困難に直面しながらもしなやかに現地に根付いていこうと頑張っているところが爽やかですばらしいと思いました。ほんのちょっと内陸に行くだけで人材を確保できるということでしたが、人材確保に悩むのは日本と同じだと共感できました。ただ、弊社が内陸になると奈良県でしょうか…ちょっと考えにくいのでまだまだ人材難に悩みそうです。

その他の企業からも学ぶことが今回もたくさんありました。

私たちの訪問に快く引き受けてくださった企業の皆様に感謝申し上げます。

後悔したことはただひとつ、肩こりを軽減させる枕を悩んで結局購入しなかったことです。

枕を購入された方の感想がとても楽しみです。最後に幹事の皆さんの気配りに心から感謝申し上げ、来年の訪中も楽しみにしています！



訪中団レポート

(株)インターフォワードシステムズ 小野 謙二

この度は訪中団に同行させていただきありがとうございます。仕事上、中国からの貨物を多く取り扱うにも関わらず、訪中は今回が初めてで大変有意義な時間となりました。テレビなどで見る雑多な中国をイメージしておりました。実際想像通りの部分もありましたが、MISSION HILLSのように開発が進みつつある地域に関しては日本以上に栄えつつあることを実感いたしました。ちょうど日本が成長したときと同じようだと感じました。5年後、10年後また同じ場所を訪れ、目で実感してみたいと思いました。

仕事では中国が多いというものの日ASEANの経済連携協定が進む中、中国からASEAN諸国へ生産をシフトする動きも実際に始まっています。そんな中、名立様や坂様が香港法人で中国にて生産を続けていく生の声を聞くことができたのは本当に貴重でした。やはり中国の13億人という人口はまだ魅力的なのだと改めて感じました。また香港の税制や法人設立についての話や、現在の中国国内の給料や生活変化などの話も大変興味深く、テレビなどでは到底知りえることができないことだったので良かったです。

また勝手ながら、途中弊社の取引先に訪問させて頂きました。深圳の保税區など実際にコンテナへの積み込み場所など普段絶対に見ることができない現場を見ることができ、加えて深圳・香港での通関事情についても話して頂き、今度の業務においても大変参考になることばかりでした。

最後にオフの日があったので、大変ゆつくりを過ごすことができました。深圳から香港への入国の込み具合には驚きましたが、13億人ということを想像しますと、すこし怖いぐらいの印象でした。歩いて入国審査を通ることなど経験できないことでしたので、良い体験ができたと思います。中国と香港とではやはり街並みや雰囲気も別物でした。これも実感できたことも良かったです。

通常1人では行くことができない場所や、することができない経験も今回の訪中団があったからこと実現できたことだと実感しております。今回は同行という形で参加させて頂きありがとうございました。今後の業務十分に活きる出張であったと考えています。

訪中団感想

金剛運輸(株) 和気 金昭

今回の、深圳、東莞、香港の訪中は、今までにないようなよい内容になりました。

深圳、東莞での企業訪問は、現地で来料加工をしている坂製作所の、坂様に案内をいただきました。坂様には数日にわたりお世話になり、まことにありがたく思っております。

深圳、東莞地域の企業説明で、名立有限公司の吉沢様に、海外の企業の撤退の話がありました。

その中の説明で、夜逃げした外国企業の写真が数枚載せられていた。また、日本企業はとようと、責任を持って撤退しているとあり、中国は、日本企業に限らず、技術等、吸収して不要になった会社は、中国にはいらぬように思いました。

香港の一日は、バスの貸し切りの時間の関係で、朝10時か

ら夜10時まで12時間の間で回り、映画によく出てくる町中のシーンを、二階建てのバスではなかったのですが、狭い町の中を走る一場面を見せてもらった、香港の街の中は、大きいバスでは狭すぎると感じた。

今回の訪中は、新鮮で有意義な時間を過ごせたとし、楽しく初めての地を面白かったです。

現地に日本人は、非常に頑張っていることが、よくわかりました。

今回の訪中団で、お世話いただいた、方々には、お礼を申し上げます。まことにありがとうございました。

謝謝

2014年訪中団に参加して

大山印刷(株) 大山 武久

トランジットの福州空港を飛び立ったあたりから、頭痛が襲ってきた。バスの振動がさらに頭痛を深刻化させ、深圳のホテルに到着した時には「とりあえず寝たい」という状態だった。中国でお楽しみ“日本食”もお茶を飲むのが精いっぱい、早々に部屋に戻ってロキソニンを1錠。訪中団が5年目になり油断があったのだろうか。

ゆっくりの睡眠とロキソニンのおかげで、翌朝はすっきりと目覚めることができた。だが、最初の訪問地で再度頭痛が。(昼食をチキンじゃなくビーフにすればよかったということではないけど) 僕のおつむではどうしても訪問したショッピングモールとゴルフ場が理解できない。マーケットがあるの? ニーズの蓄積の上に成り立っているの? 自分自身がどんどんちっぽけな人間になっていき、中国側の説明の声がどんどん遠くへ。そのうえ彼らの“西洋文化論”が加わると「お金が有り余っている人々の見栄と虚構。つるはしを振るっている作業員がすぐそこにいるのに」と少々不愉快に。「ねたみに聞こえるかもしれないけど、ねたみじゃないからね。完成後の姿を確認しに参りますから」という思いを持ちました。

3日目を迎えた時点で、個人で使ったお金は23人民元。9月

に上海を訪問した時以来続けているコンビニ買い出し部屋飲み会のたまものだ。今回、初日の3名から始まり最終日には7名にまで拡大した。毎夜の夜遊びが、毎夜の部屋でのグループ討論になった。それだけ、中国での日本人が転換期にあるような不思議な気分になりました。僕が肌身で感じた5年間でこれだけの変化があることを痛感した。そして、自分の部屋を提供する側としては、みんなが帰った後、空になった缶ビールを眺めながら、「儲けなきゃ」と

今回の訪中団で使ったおこづかいの総額は1000人民元とまくら代。3日目のカラオケ800人民元、帰路福州でコーヒーとマフィンで40人民元。香港のショッピングも50香港ドル。

カラオケさえ行かなかったら、と少し後悔。

最後に、深圳ではLINEもfacebookも使えず、ストレスの塊でした。自分自身が、ネット社会に組み込まれていることを再確認すると同時に、そこから隔離されている中国の人々が一度それを獲得すると、中国はどんな転換期を迎えるのか想像もつかないなと感じました。



改革開放から内需拡大へ

川本工業(株) 中野 幹生

香港との国境に、長い行列ができています。今日は土曜日ということもあって、地方からの団体観光ツアーが押し寄せています。私たちの出入国手続きは1時間半を要しました。

香港人はその隣を自動改札にICカードをかざして颯爽とすり抜けて行きます。香港の若者たちのデモが長期化していますが、彼らの目には柵の中で身動きの取れない私たちの姿が、将来併合される自分たちの未来を想起させるのでしょう。

中国と香港の「一国二制度」が一番よくわかるのは、自動車の通行規則でしょうか。中国側は右側通行、香港は日本と同じ左側通行。中国はこうした「一国二制度」をしばらく維持すると言っていますが、香港人のガイドさんが言うには年々政府の圧力が強まっているとのことでした。



香港の北隣は深圳です。深圳は1980年に経済特区に指定されて開発が進みました。何もなかった荒地が30年で戸籍人口250万人、常住人口1500万人という巨大都市に成長しています。若者が特に多い街なのです。経済規模は中国第4位、ひとりあたりGDPは中国で最も高く1万ドルを超えるようです。改革開放経済の象徴的な存在です。

この地域では、外資を呼び込むために「来料加工」と呼ばれる工場運営が許可されてきました。これは、海外資本が香港に法人を設立(10ドル程度で可能)し、材料を輸入して完成品をすべて輸出する場合、増値税(付加価値税)や法人設立が免除される措置です。外資はこぞって工場を進出し、「世界の工場」を築きました。深圳をはじめ東莞・広州を含む珠江デルタ地域の輸出依存率は、一時70%を超えたとされています。

それだけにリーマンショックはこの地域に大打撃をもたらしました。多くの企業が廃業・倒産し、失業者が増加したのです。私たちも、なんとか生き残りを果たした日系の縫製工場を視察

しましたが、規模は著しく縮小し、来年にはミャンマーに移転するとの報告を受けました。

これを根拠に「世界の工場が終わった」「中国は崩壊する」「シャドーバンキングの影響はリーマンショックの比ではない」と言われるのですが、私の実感は少し違います。



海外から流入した膨大な資金、雇用者に移転された高度な技術やノウハウが国営企業やローカル企業を支えています。これが政府主導の内陸部開発と併せて次世代の経済基盤構築に寄与しています。米国債の最大の買い手は、今度のAPECを見ても中国の将来的なプレゼンスを確かなものとした。ロシアとの関係も盤石です。

上海をはじめとする摩天楼の数々が象徴的ですが、これまでの中国の成長は「高下駄をはいたもの」であることは間違いありません。

しかし、私たち日本人が注意すべきなのは、高下駄をはいて飛び回っている中国の姿は、空想ではなく現実だということです。重慶など内陸部の大都市の成長率は軒並み10%を超えています。海外旅行や国内旅行を楽しむ中国人の笑顔を見ていると、私たちは雑技団の曲芸師に「危ないから止めたほうがいい」と注意しているような、奇妙な違和感を覚えるのです。

膨大な《内需》が、日々沸き起こっています。その勢いは日本の高度成長前夜を実感させます。リーマンショック以降に日本の食品産業のダメージが少なかったように、《実態経済》という底堅い魔物は、ネクタイを締めたアナリストに読めるものではないという気がするのです。

2014年 訪中団(東莞、深圳、香港) 感想

アベル(株) 居相 浩介

今回で3度目の訪中団となりましたが、訪中委員として訪問先の企画段階から参加させて頂きました。数年前から中国以外の選択肢として、チャイナプラスワンという言葉をよく聞くようになりましたが、実際のところどうなのでしょう。既に中国に進出していて、チャイナプラスワンを思考している企業の生の声を聞いてみたいという趣旨で、ASEAN諸国に近い中国南部(東莞、深圳)に進出している企業への訪問を計画しました。また昔から中国からの貿易窓口として機能している香港と東莞、深圳との関係性、メリット、来料加工について理解を深めることをテーマにすることしました。

落合会長の幅広いコネクションの中から、東莞の坂制作・坂さんに今回の訪中団のアテンドをお願いしました。

1. Mission Hills

ゴルフ場、ショッピングモールなど不動産開発ディベロッパーで、世界一のホール数を誇るゴルフ場を所有し、世界中から文化を集めることを目的として、開発を行っている。日本の文化についても1社だけでなく、食べ物、お茶など日本を代表するものを取り入れたいと非常に意欲的。当社訪問先の計画にはありませんでしたが、先方からの強い要望により訪問。ゴルフ場、ショッピングモール建設地の見学など、今年の訪中団は例年と違うというスタートを切りました。

2. 名立

東莞の工業団地運営会社。日系企業向けにサービスを提供。しかし昨今は中国進出を薦めるよりも、日本でがんばれる会社は日本でがんばってくださいと、よっぽどでないと薦めないというほど状況は悪い様子。

3. 坂制作

金属加工が専門で、自動機用の治具などを日本品質、中国価格で提供することを得意とする会社。会社の立ち位置が世の中のニーズにマッチしていること、さらに坂さんの現地での人脈作りにより、中国国内での事業継続に意欲を燃やしている。

来料加工とは原材料を日本など外国から輸入し、加工だけを中国国内で行い、すべて輸出する形態のこと。香港と広東省で結ばれた条約により関税、増値税がかからず、税制面で優遇される。来料加工はライセンスが必要で、期限が決まっており、今後延長される見込みは薄い。したがって今後事業を継続するには独資で中国法人をつくる必要に迫られる。

4. 山小屋

九州のラーメン屋さんで、日本のとんこつラーメンチェーンで海外進出を果たしている。日本と同じ味を味わうことができ感動。日本の食文化が世界で通用することを実感。

5. 栄華電資

電気設備部品の商社。日系メーカーの部品を輸入し販売。香港で会社を設立し、中国で商売をしている。香港を使うメリットは税金が安いこと、会社設立の費用が安いこと。ベトナムにも進出しているが、設備部品は中国のほうが入手しやすい。

6. 才智商業管理

日系の会計事務所。テクノセンターという工業団地内に立地し、日系企業向けに工業団地内から出る企業に対してのハード、ソフト面の支援を行う。

7. 明智皮具製品

財布のOEMメーカー。機械化、自動化の難しい加工で一つ一つ財布を手作りしている。以前は安価な人件費で利益が出ていたが、人件費の大幅な高騰により、中国での生き残りは厳しい状況。来料加工のライセンスはあるが、2018年までと期限が迫っており、ミャンマーに進出して現状の打開を目指している。

以上、訪問先での意見交換を簡単にまとめて見ました。今回テーマに沿って、各社いろんな角度から、話を聞くことができ、①香港に会社を設立することの税制面でのメリット、②設立の容易さ、③来料加工という制度の歴史と今後は期限が切れるために打開策を打つことが求められていること、④人件費高騰への対処としてチャイナプラスワンを思考していることなど、多面的に知ることができたと思います。

アテンドしてくれた坂さんには、正直無理なお願いをしました。最後の夜に、今回の経験は、坂さんにとっても思い出に残る経験ができたと言ってもらい、私もホッとしました。

最終日には香港へ歩いて国境を渡り、有数のパワースポット、夜景を見て、皆さんと旅の思い出をつくることができました。

参加者の皆さんが、現地の経営者に率直な質問をおつけて下さったこと、またその質問に真摯に答えようとしてくれた姿勢が、今回の訪中団が充実したものとなった秘訣だと思います。

今回も多くのことを学ばせていただき、ありがとうございました。

深圳・香港視察に感謝

K総合会計 大塚 教進

この度の中国訪問において、企業の導入期・成長期・成熟期・衰退期を一度に拝見した思いであります。

どの企業も負けないぞとのエネルギーも持っていました。

外部環境を先見性をしっかり持っていました。

良い会社を、良い経営者をめざす、良い経営環境を持っていました。時代の流れ、産業構造の変化、政治・経済の仕組みからの幾多の困難な課題があり、総合的な視点から常に考えている人ばかりでありました。

工業団地の運営管理会社では日本企業9社入居し、6割ほど日本に輸出する。

悩みは中国人労働者の賃金上昇と言う。毎年10%～20%で上昇、更にここ数年は中国内需拡大により人手不足の流れ、内陸部の発展に伴い沿岸部に出稼ぎの人が一度帰ると戻れない人もいる状況。

中国人労働者には、寮と食費が必要となる。これは賃金以外に必要な経費となる。

この工業団地にいた労働者約2,000人から約1,000に減ったと聞く。

深圳は、香港の近くに税負担を考え、更に地理的な関係上中国ビジネス展開するに非常に有効と聞く。現実には中国の本土外投資は約45%が香港からの投資、香港の税制、16・5%の税率が魅力的で多くの国から香港で起業する人がやってくる。

実際事業利益を生み出すために掛かった経費は全額損金算入でき、キャピタルゲイン課税がない。赤字の永久繰越、香港に源泉がない収益に対して課税免除など、実際のパーセンタージュではかれないメリットがあると聞く。

法人設立の簡易さも魅了する。

この度、日中経済交流会の選抜で視察していただき、また阪制作の坂さんには、快くサポートしていただき感謝いたします。



活きた学びの4泊5日

坂元鋼材(株) 坂元 正三

訪中団には4年ぶり(3回目)の参加でした。深圳は個人的には20年ぶり、その急速な発展ぶりに目を見張りました。しかし何よりも驚かされたのは、中国の人件費高騰で旧来のビジネスモデルに変更を余儀なくさせられている進出企業の苦悩の姿でした。

「しっかりとビジネスモデルがなければ来ないほうがよい」「日本で頑張れる企業は日本で頑張った方がいい」との発言が衝撃的でした(名立工業団地の吉沢社長)。経営が立ち行かなくなった外資の経営者が工場も従業員もすべて放ったらかして「夜逃げ」するという現実も知りました。

最も印象深かったのが財布の加工工場。手作業に多くを頼るため人件費のウエイトが大きい。当初1万円程度だった最低賃金が急速に切り上がり、今では4万円に迫ろうとしている。だから18年間続けた中国での生産を見切り、ミャンマーへの移転を進めておられます。かの地では中国よりはるかに安い1万円程度の月給。日本で私たちが普通に手にする商品(財布)が出来上がるまでのドラマを垣間見る思いでした。そこにどれほどの人の汗と努力が込められているか。しかし、どことなく寂しい気持ちも拭えません。月給4万円が高いから1万円の労働力を求めて他国に移る。その行き着く果てはどこなのだろうか。そこでは「人=コスト」以外の何ものでもなく、働く社員(人間)に求められるものは所詮は機械の代わり。いつでも代替の利く単なる労働力。心なしか働いている中国人社員の目つきもどんよりと暗かった気がしました。

現地で長年頑張っておられる日本人経営者のご苦労には

本当に頭が下がります。しかし同友会の言う「人を活かす経営」とは方向性が違うように思えます。「違いは違いであって間違いではない」のですが私にはどうにも共感できない経営スタイルでした。市場経済では「安く作ること」が強く求められているのは一面の真実。それを追求すれば、このように低賃金を際限なく追いつける経営になってしまうのでしょうか。「間違い」ではないでしょうが、私たちの追及する経営とは「違う」ようです。それは経営者の小野社長ご自身がディスカッションの時に見せた辛そうな表情にあらわれている気がします。ミャンマー行きを宣言されていたものの、決してそこには夢や希望に向かうようなワクワク感や喜びは感じられませんでした。

一方、日本のバブル全盛時代に流行ったような総合リゾート施設を見学し、その金満っぷりに度肝を抜かれました。1棟10億円クラスの別荘がゴロゴロし、それを個人で買える層が存在する現実。豊かさへの道をひた走る中国の姿を目に焼きつけました。

今回も訪中委員の皆さん、現地でのコーディネーター・坂さん(坂制作)をはじめとする方々にたいへんお世話になりました。個人旅行では到底得ることの出来ない充実した学びでした。総勢18人の一行が4泊5日の集団行動で親しくなるのも訪中団の魅力。バスでの移動中、食事中、そして夜の「部屋飲み」など、あちこちで「テーブル討論」が繰り広げられました。まさに大人の修学旅行。今回も満喫させていただきました。ありがとうございました。



2014年訪中団報告

三恵ハイプレジジョン(株) 落合 良寛

今期の研究テーマは「視野を広く!中国、そしてアセアンを知る」である。訪中委員会は、そのテーマ通りのミッションを企画してくれた。訪問先は深圳、香港。個人的には、かねてから耳にしていた香港法人を設立し中国内で法人格を持たない工場で生産し輸出する仕組みとメリットを知りたかった。それともう一つ、人件費が高騰し続ける中国でのものづくりは今後どうなのかである。その事業形態に係わる、

日系向けの工業団地を経営されている「名立有限公司」
金属部品を製造、日本に輸出している「坂制作香港有限公司」
財布を製造、日本に輸出されている「明知銀包国際有限公司」
上記3社を視察させていただいた。まさしく香港⇄深圳ビジネスをしている経営者の話が聞けた。その仕組みとは来料加工という。香港と広東省との間で行われている中国の工場を使った委託加工で、香港の税制で会社を運営できて、中国内で法人格を持たなくてもいいという低い投資と、香港法人に利益を蓄積できる大きなメリットがあるという。しかし近年、中国政府の法規制と最低労働賃金の高騰により、来料加工事業が存続しにくい状況に外資企業は追い込まれているようだ。その対策として委託加工形態から中国内で法人転換することによって事業を継続したり、生産拠点を他国に求めるなどが進んでいる。今まさに転換期だ。他国への移転に伴い日系工場を閉鎖する場合、従業員200人規模の会社で、その撤退費用に5~6000万円程度かかるという。資金力の乏しい中小企業が今後直面する大きな問題になるだろう。これは来料加工だけではなく中国各地に進出している日系企業も同様だろう。今回、来料加工の仕組みとそして今後の諸問題を知ることができた。また、香港法人の設立メリットも理解できた。目的は達成できたと思う。

中国の最低労働賃金は年々高騰し、深圳では10年間で約5倍になり今後も上昇基調だという。賃金の上昇は、生産コストに直接影響し中国の物価もかなり上昇していると肌身で感じる。今後、日本製品と中国製品との価格差が小さくなり販売チャンスが生まれる。そのような話を日本ではよく耳にするが、名立有限公司の吉沢董事長によれば、最低労働賃金を遵守しているのは外資企業だけで、ローカル企業は定かではないが守っていないという。この情報が正しいとすれば、義烏を訪問した時に見た、考えられない低価格の商品が店頭に並ぶ理由

が理解できる。13億の人口を抱える中国の奥深さを感じさせられた。まだまだ日本製品は対等に戦えるとは思えない。

訪問先は、日系工業団地経営、金属加工と縫製の製造業、会計業、日系貿易商社とラーメン店、人材派遣業など業種が多岐にわたった。私たち異業種の18名の参加者も多岐な情報を入手できたようだ。また最終日、中国から陸路で香港に入った。一国二政府の形態も体験もできた。5月から準備した訪中委員の方々、航空券とホテルなど旅行手配の幹事さん、通訳をしてくれた幹事さん、そして視察先をアテンドしてくださった坂制作香港有限公司の坂董事長。事前準備の大切さを教えられました。皆様に改めてお礼申し上げます。



訪中団レポート(感想)

(株)リバーフィールド 山岡 和美

2回目の訪中団(深圳&香港)帰国後、新たな社内での取り組みやMK会という連携体での展示会出展などがあり、あっという間に2週間が過ぎてしまいました。

すこし時間が過ぎて振り返って印象に残っていることを少し…。

深圳ってめっちゃ都会やん。人口1200万人もいる。。。でもいっぱい緑があっってお天気がよかったら熱帯アジア気分にもなれるなあ。ということで、来年の7月頃オープン予定の大きくて豪華で超リッチなミッションヒルズというゴルフリゾートの複合施設の見学はとても楽しかったです。でも文化を全く感じない新たなデザインの建物に世界中の文化を取り入れていきたいとの最新のプレゼンに、なんだかとても中国の経済発展の速さと違和感を感じました。

そして、来料加工という香港と隣接した地域独特の制度の中で明暗が分かれるそれぞれの製造業の経営者自身の経験と今の状況と今後の本音や私たちへのアドバイスは、本当に深く考えさせられました。また、今の中国の一部を深く知ることができたように思いました。特に、今後中国以外への移転を実行しつつあるお財布メーカーさんの今後に活路があるのか、ふと自社と比べて自問自答しました。モノづくりの形がよく似ている

と感じたからです。結構大きな機械がセクションごとに必要だけど、ほとんどはすべて人の手が必要でその技術で決まる。この先は、想いがどこにあって何を目指していくかで方向が決まるような気がして新たに目指すべき道を明確にしようと思えました。その一方、来料加工という条件をうまく利用してこれからも拡大していこうとする企業さんや、他の訪問させていただいた工業団地を経営する会社、日系の会計事務所、日本のラーメンチェーンを展開するいろんな業種・業態の企業さんからは、まったく中国事情に明るくない私にとって、今の中国を自分なりに感じて知れる貴重な体験となったように思います。

貴重といえば、中国から香港にお買いもの客が陸続きの国境を超えるパワーのすごさに、今の中国と香港の力関係を身を以て体験したのも忘れられません。

と、本当に思わず学ぶことも多い視察となりましたが、やっぱり風変わりなメンバー構成が、今回もいろんなことを違った見方や感じ方をさせてくれて、思わぬ体験ができたりして、こんな風に世界の人とお友達になればいいのになあと思わせる訪中団でした。

楽しい旅をありがとうございました。

.....

訪中団に参加しての感想

(株)カナツ加工 金津 智俊

平成26年11月5日から9日までの、深圳地区の中小企業の視察について、初めに深圳市の町があれ程大きな町とは驚きました。

改めて中国の巨大さに驚かされてきました。

今回の視察で、新たな発見また勉強になったのが、香港に会社は作り中国本土で生産拠点をもち、お金の決済は香港です。また中国よりも、香港での会社設立は簡単で資金も少額で済む事には驚きを覚えました。初日の視察コースで、ゴルフ場経営会社が次の戦略として総合リゾート施設を建築されていました、日本ではあまり見るのできない壮大な光景でした。

華僑効果なのでしょうか。

坂製作香港有限公司様、坂様には“おもてなし”の心を感じました。視察団に2日間同行いただきました。

最後に、目まぐるしく変化する、中国、その中でもトップで動く深圳地区の経営環境、今後どうなるのでしょうか？

深圳で会計事務所を経営しながら日系企業を支援されている経営者が「中国への進出は勧めない」。ワーカーの確保難、人件費の毎年10%UP、税制の変更。

とても、中身のある視察団でありました。

2014年訪中視察所観(深圳・東莞、香港)

(株)Sea Hawk International 趙 海鷹

2014年11月5日～9日まで、中国の南、深圳・東莞・香港へ視察に参加してきました。

深圳は香港と隣接し、中国の経済特区に指定されている地域として、上海市、北京市、広州市に次いで、中国大陸都市ランキングでは第4位であり、中国本土の大都市の中では最も所得が高いと言われている地域でもあります。

視察初日の深圳では「世界最大規模」といわれるゴルフ・リゾート複合施設を見学させて頂きました。運営会社の若手幹部数名により、施設について詳しく説明をして頂きましたが、皆さん若くて優秀で、自社の将来について熱く夢を語って頂いたのがとても印象でした。例年視察で訪ねる中国ほかの地域とは違って、外資系企業の誘致につての考えですが、単なる海外商品を誘致するのではなく、その国の文化、伝統ある商品のモノ語りを誘致して、リゾート地全体の文化的な素質を高めたいと熱く語っていたのがとても心に響きました。文化や伝統を認識する時代の到来を肌で感じた瞬間でもありました。

日本進出サポートを行う企業や10数年前から中国市場を見込んで、中国市場開拓に頑張っている日本企業も視察しました。現状を詳しく聞かせて頂いたところ、人件費の向上及び人材獲得が難しいのは事実で、人材が集めやすい為に通勤しやすくより便利な地域へ拠点を移す企業もある。但し中国ビジネスを完全に撤退する考えは意外と少なかったです。一方30

年前の低賃金で人材集約型のビジネスはもうミャンマーなど違う国へシフトしなければならない状況になった社長もいらっしゃいました。ミャンマーへ工場ごと移すには、中国現地の中国人幹部を含め、幹部層全員連れて一緒にミャンマー工場で挽回するとおっしゃっていたのが、とても印象に残りました。また、現地で人材斡旋する日本人社長からも相変わらず、深圳では高級人材、日本人の採用ニーズが高い現状も聞かせて頂きました。

帰国の前日は、深圳から香港へ境界を越えていってきました。出入国手続きをしている流動人口も多かったし、香港街中にも中国観光客、買い物客も多かったです。週末中国の国民は香港へ行って買い物する、その光景を目の前にして、人々購買意欲の高さにあらためて感心しました。

今回の深圳・東莞、香港視察は、メーカーから初め、娯楽産業、飲食産業、商社、誘致サービスなど様々な業種の方々に直接お話を聞いたことがとても良かったと感じます。

日本の「ものづくり」としては、もうすでに中国進出のメリットが少ない状況かもしれませんが、サービスを切口にすれば、日本商品はまだまだ参入チャンスはあると感じました。

Global時代にどう勝ち残れるか再度考えさせて頂く有意義な視察だったと感じます。今回も一緒に思い出を作って頂いた皆様に心より感謝致します。

